日刊 動労千葉

82・5・26

No.1053

国鉄千葉動力車労働組合
千葉市要町二一一八（動力車会館）
（鉄電）二九三五～六・（公衆）〇四七二（22）七二〇七

三里塚・ジェット闘争貫徹！「国鉄35万人体制」粉砕！

当局の責任を一切ほおかむりした 乗務員への不当処分弾劾！

＝錦糸町駅構内電留線脱線事故（81・11・12）で、不当処分を発令＝

事故の元凶＝臨調攻撃を粉砕せよ！

昨年の11月12日、錦糸町駅構内電留線で発生した脱線事故について、当局は5月19日、当該運転士に減給一ヵ月1/10、運転士見習に戒告という不当処分の発令を強行した。

この事故は、当局の営利優先＝運転保安無視によって起こるべくして起きた事故である。　不当処分を弾劾するとともに、われわれは事故の元凶＝「行革」・オ二臨調攻撃を粉砕するため全力で闘わねばならない。

一切の責任は当局にある

再三指摘してきたように、錦糸町電留線の事故は、起るべくして起きた事故であり、一切の責任は当局にある。すなわち、錦糸町駅構内電留線は、二重に欠陥電留線であるという事である。

それは**オ一に**、出発信号機附近の接点に5秒の時素を設けてあり、⊗信号が機能しないというATCによる保安装置が欠落しているという点である。**オ二に**、電留線有効長が三二〇メートル（※15両編成電車列車は三00メートルある）と、過走余裕距離が極端に短く、停止目標から砂利盛りのストップまで、わずか11メートルしかない点である。**オ三に**、さらに乗務員養成における無責任さである。当局の乗務員需給における将来展望の甘さから乗務員が不足したが故に、学園教育と見習乗務期間を短縮し、それがATC教育の省略と錦糸町駅電留線のハンドル訓練不足を招いたことである。

運転保安闘争を闘いぬいた千葉転支部

われわれは、事故発生以降、運転保安の立場から、こうした欠陥電留線の放置および無責任な運転士見習養成教育を行なってきた当局に対し徹底的に追及し、①過走余裕距離の延長。②ストップ線の保安対策。③措置としての運転の取り扱いについての申し入れを行ってきた。　同時に当該千葉運転区支部では、場内信号機から停止位置まで速度を15㎞以下に落す除行運転を実施し、運転保安闘争を闘いぬいてきた。

「処分さえ出せば終り」という当局を許すな！

こうした申し入れと闘いに対し、当局は何ら抜本的改善を取り組むどころか、4月28日、当該運転士と見習運転士に不当処分を通告し、弁明弁護を一方的に打ち切って、5月19日、不当処分の発令を強行した。とりわけ処分事由のなかで「これは運転関係従事員として、その責務を尽さず事故を引き起した」などと述べていることと前例のない見習運転士に対する不当処分を断じて許すわけにはいかない。

国労共闘を軸に、国鉄労働運動破壊攻撃を粉砕しよう

当該千葉運転区支部では、直ちに国労との共闘体制のもと、電留線の抜本的改善・見習訓練のあり方・教導運転士のあり方について、対当局交渉による追及を開始した。

今回の不当処分攻撃こそ、臨調答申に基づく「悪慣行是正についての申し入れ」にそった、既得権剝奪＝職場支配権奪還をかけた当局の攻撃の一環である。

オ二臨調粉砕・不当弾圧粉砕「6・5労働者集会」へ

運転保安を無視し、事故責任の一切を乗務員に転嫁し、不当処分を強行した当局を弾劾し、更に闘いを強化しよう。

事故問題、更には労働運動の基本活動への介入・弾圧粉砕し、「6・5労働者集会」の成功をかちとろう。

6・5労働者集会
第二臨調基本答申粉砕！
国鉄労働運動解体攻撃粉砕！動労千葉への不当弾圧許すな！三里塚二期着工阻止！
講演 中野洋氏
千葉市民会館
6月5日(土)17:30
動労千葉

全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉砕せよ！